

○ 第1回「ハートミーティング」 意見交換の内容について

メンバー 資源ごみ用の指定袋に課題を感じる。市民に、プラスチック製容器包装と、それ以外のプラスチックの分別をきちんとしていただけていない。プラスチック製容器包装専用の袋をもう一種類用意してはどうかと思う。

市長 それを実現するための課題など、勉強していきたいと思う。

メンバー 不祥事根絶に向けた取組を、「濃みを出しきる」という言葉で表現されることがよくあり、悔しく思っている。組織の中にある、悪い部分によって「濃み」になっていくのかもしれない。やる気を評価していただける職場にしてほしい。

市長 私もまち美化事務所を訪問したが、現場の職員は意欲が出てきており、明るい雰囲気になってきている。お互いが良いところを評価しながら、悪いところを改善していく職場にしたい。

メンバー 他都市の良いところを取り入れていきたい。

メンバー ごみ収集業務以外の活動をさせてほしい。サミットなど、大きなイベントで活動させてほしい。

市長 良い考えだと思う。

メンバー 市民の信頼回復のためには、市民に尊敬される仕事をしていくことが必要である。自分たちが今後できることとして、災害時に発生するごみの処理や、違法看板の撤去等がある。

また、現在でも高齢者宅へごみを取りに行っているが、もっと高齢者に優しい取組をしていきたい。

市長 よく分かる。行政がやっていくことと、地域みんなでやっていくことの兼ね合いを考える必要がある。

メンバー ごみ収集時の散乱したごみの片付けや、からすネットの片付けは難しい

ことではないが、やらなくてもとがめられるものではないので、やらない者もいる。職員の意識改革が大切である。

全員が目標を持って、各まち美化事務所が競い合い、その取組の結果をホームページで公開する等してフィードバックし、改善につなげるといった仕組みが必要である。

市 長 実践と評価は大切なことである。

メンバー からす対策として、とうがらし入りのごみ袋や、からすネットを導入してはどうか。

また、ごみの分別について、市民の方の意識も高めていくことが必要と思う。啓発活動の一環として、市民から排出されるごみの質を調査し、その結果を市民の方に公表してはどうか。

市 長 とうがらし入りの指定袋を作るとなると、さらに費用が増えるのではないかな。

ごみの分別については、市民の方の協力も必要である。

メンバー ごみの収集方法について、定点収集を推進したい。観光都市である京都として、観光客に、そこら中にごみが散らばっていると思われたくない。

また、普段の作業も更に効率化を図り、勤務時間を有効に使い、まちをきれいにしたい。

いろいろなアイデアを実現できるよう協力してくれる上司がほしい。

市 長 勇気を持って発言して行ってほしい。

「頑張ろうと思っている人」、「今のままでいい」と思っている人がいる。前者の意見が通るような職場作りが重要である。そのためには、上司のリーダーシップが求められる。

メンバー 市民の方の声を把握し、実現していくことが大事である。市民の声を吸い上げるために、ごみ収集に関するアンケートを実施してはどうかと思う。民間企業では、そのようなことを行っている。市民サービスは、行政の思い込みで行うのではなく、市民の方が本当に求めていることは何かを押さえることが必要である。

- 市 長 そのとおりである。市民の方との接点が大切である。
 ごみの収集作業員は市民の方にとって一番身近な公務員である。笑顔や会話は一番大事である。
- メンバー 市民の意見を直接聴きニーズに応えられるように、ごみ収集時には積極的に市民に声をかけるようにしている。
 また、職員一人ひとりのレベルアップも必要だと感じている。
- メンバー 休日に事務所を開放し、フリーマーケット等に使用していただいたらどうか。
 また、地域で行われる一斉清掃に参加することにより、地域との関係を築けるので、他のまち美化事務所でも取り組んではどうか。
 それから、災害時に事務所を使用できるようにしたい。職員の救急救命の知識、実技の習得も必要である。
- 市 長 いろいろなアイデアがあって良い。
- メンバー 以前、市長が話されていた「49対51」の話を改めて聞かせていただきたい。
- 市 長 河合隼雄先生は、「人間の深層心理と行動は「49対51」で決まる。」とおっしゃっている。人間の深層心理と行動は微妙なもので、ちょっとしたことで良いようにも悪いようにもなる、という意味である。全員が良いところだけを発揮できるような職場にしたい。悪いところについては、人格を否定するのではなく、その部分を指摘できるような人間になってもらいたい。
- メンバー 先ほどの意見交換の中で、市長が「行政がやっていくことと地域でやっていくことの兼ね合いを考える必要がある。」とおっしゃった。行政がやっていくべきだと決めているのではないようで意外だ。
- 市 長 まさに49対51の話で迷うところである。行政がやっていくことも大切だし、市民の方にしていただくことも大切。その両方で、質を上げてい

く必要がある。

メンバー ごみ収集業務において、何がサービスであるか、市民の方も市も迷っている部分があるように思う。分別収集について、市長はどのように考えておられるか。

市長 2030年にはCO2半減、2050年にはCO2をゼロにするため、モデルになるような取組をしていかなければならない。そのためには、もっと分別を進めていくべきである。

メンバー 大きな話になっているが、地盤が固まっていない部分もある。そこまで意識が高くない職員もいる。もっと身近な小さなことから変えていかないといけない。

メンバー このような研究会を活用して、意見が市政に反映させられるような仕組みを作っていただきたい。

メンバー 市長としてではなく、人生の先輩としてお聞きしたい。現状を改善していきたいが、それを言い出しにくい雰囲気がある場合、どのようにしたら良いと考えておられるか。

市長 改善していくには、自分から変わっていく必要がある。行動し続けていくことが大切であり、その行動を声に出し、仲間を増やしていけば、それが改善の仕組みとなる。

メンバー 自分も収集作業の時に丁寧な作業や収集後のからすネットの片付けをやり続けた。事務所で反対する職員もいたが、やり続けると、次第にまち美化事務所内の雰囲気が変わり仲間が増えた。市長のおっしゃるとおりだと思う。

市長 政策は、私個人の意見で決まるものではないが、本日、メンバーから聞いたことは、しっかり胸に刻んで、できることから実施していきたい。

第一線で働き、苦勞の多い立場ではあるが、信頼回復に向けて前向きに取り組んでいただいている姿勢に、感動している。

以上